

今なら止められる! 万博中止署名よびかけ

「明るい会」が
府政を考える
シンポジウム Symposium

「明るい会」は11月21日、「大阪万博の破綻、維新政治の行方を問う～大阪府政を考えるシンポジウム～」を開きました。有田洋明事務局長が基調報告、元副知事の小西禎一さんが特別報告、『維新断罪』の著書もある日本城タクシー社長の坂本篤紀さんがゲストスピーチしました。

万博よりくらし!!!

有田洋明事務局長は、次のように報告し、新たに万博中止署名の取り組みなど、世論をいっそう大きく広げようと呼びかけました。

オンライン署名は
こちら



世論広げよう



Report 1

万博「不要」の世論が7割近くに

会場建設費が当初の約2倍の2350億円に上振れなど「納得できない」77% (NHK)、「万博は不要」68% (共同通信)と世論は大きく変化。公費負担のさらなる増加も懸念されます。2024年4月12日までに中止すれば、損失補償は約340億円です。



有田洋明
事務局長

Report 2

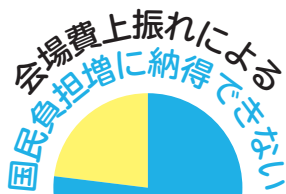
夢洲での万博開催は、カジノの「かくれみの」

事業費大幅増の大きな要因は、維新がカジノ誘致予定地の「夢洲」に決めたからです。夢洲への陸上ルートが2カ所しかなく、軟弱地盤と汚染土壌が難工事を余儀なくさせています。

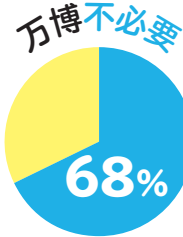
Report 3

維新政治こそ問われている

維新は「二重行政」を批判してきましたが、今は、大阪府・市が「二重」になって、ゼネコン浪費型の大型開発に突き進んでいます。「万博は維新が掲げる『身を切る改革』の例外なのか」(「朝日」10月1日)、「万博の開催がカジノ推進の手段のようになれば万博の機運もしぼみかねない」(「読売」10月7日)など、メディアも厳しく批判しています。



NHK
11月10～13日調査



共同通信
11月3～5日調査

今なら止められる



ゲストスピーチ

日本城タクシー社長 坂本篤紀氏

Profile

坂本篤紀(さかもと・あつのり)さん/理学療法士としての勤務や自動車関連事業自営ののち、1987年日本城タクシー株式会社に就職。2013年同社代表取締役。コロナ禍で業績不振時に自社バス3台を売却して社員の雇用を守り話題に。現在もタクシーに乗務。



膨れあがる費用 東京五輪と同じ

「(コロナ禍で、バスを売って)従業員を守った」と紹介がありましたが、従業員は資産。人は財産です。バスはまた買えます。万博の問題では、「来場者が2千何百万人來ます」というが、トイレなど下水道が対応できるのか。流せません。日本は地震国です。期間中に地震が来たらどうするのか。多くの外国人までが被害にあってしまう。360度の木造リングに350億円。1度あたり1億円です。東京オリンピックの時と同じで、費用が膨れあがる。いいか悪いか、普通に考えたらわかる話です。

特別報告

元大阪府副知事 小西禎一氏

Profile

小西禎一(こにし・ただかず)さん/1980年大阪府入庁。橋下徹知事時代に改革プロジェクトチーム長。2009年総務部長。2012年～2015年松井一郎知事のときに副知事。2019年4月大阪府知事選挙に無所属で立候補。共著に『維新政治の内幕』。



「思いつき」ではだめ

維新の政治をみてきて懸念していることがあります。一つが「思いつき」。あとは野となれ山となれでは、大阪がスタスタにされるのではないかと。そんな思いつきで始められた万博が、こんな状況(費用負担の相次ぐ増額など)になっています。もう一つの懸念は、「いつか来た道」になるかもしれないということ。「経済効果がある」と言いますが、それって昔、大阪府が「経済活性化するんだ」と大型開発事業をやって、たいへんな財政危機に陥ってしまった。